

ハツ場ダムの完成で、これから危惧されること

ハツ場あしたの会 嶋津暉之

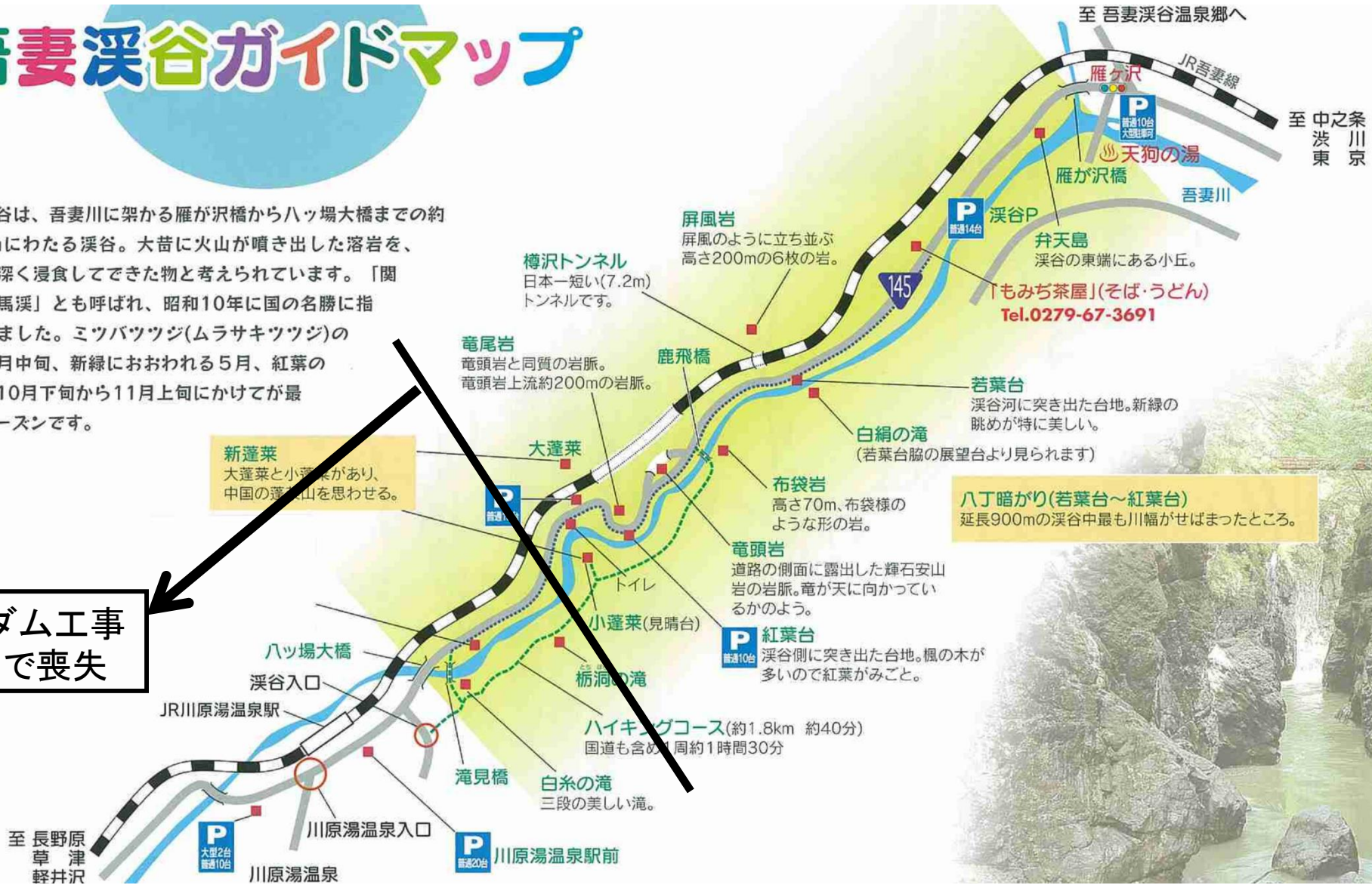
- 1 吾妻溪谷の変貌
- 2 富栄養化によるハツ場ダム湖の水質悪化
- 3 ダム湖上流端の河床上昇が引き起こす問題
- 4 ダム湖周辺で地すべり発生危険性
- 5 川原湯温泉街の今後

1 吾妻溪谷の変貌

吾妻溪谷ガイドマップ

吾妻溪谷は、吾妻川に架かる雁が沢橋からハッ場大橋までの約3.5kmにわたる溪谷。大昔に火山が噴き出した溶岩を、川水が深く浸食してできた物と考えられています。「関東の耶馬溪」とも呼ばれ、昭和10年に国の名勝に指定されました。ミツバツツジ(ムラサキツツジ)の咲く4月中旬、新緑におおわれる5月、紅葉の美しい10月下旬から11月上旬にかけてが最高のシーズンです。

ダム工事で喪失



(東吾妻町観光協会の資料より)



吾妻溪谷 (鹿飛橋を上流から撮影)

吾妻溪谷の魅力は
岩肌がきれいな
奇岩怪岩にある。

残された吾妻溪谷も今後、
様相が大きく変わってしまう。

下久保ダム下流の三波石峡（群馬県藤岡市） （1968年竣工）



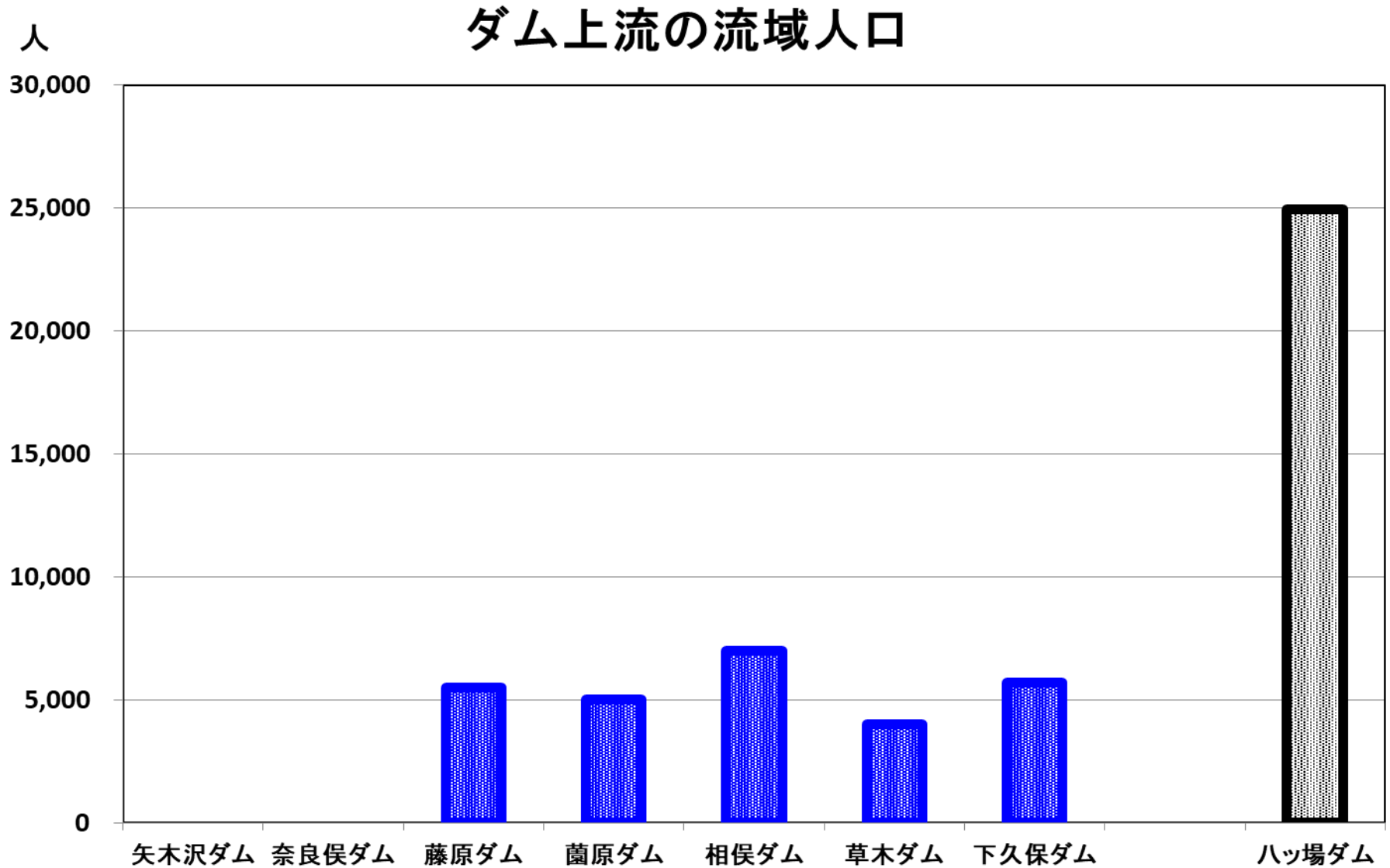


現在の三波石峡(2013年5月30日撮影)

岩肌をコケが覆い、草木が生い茂っている。

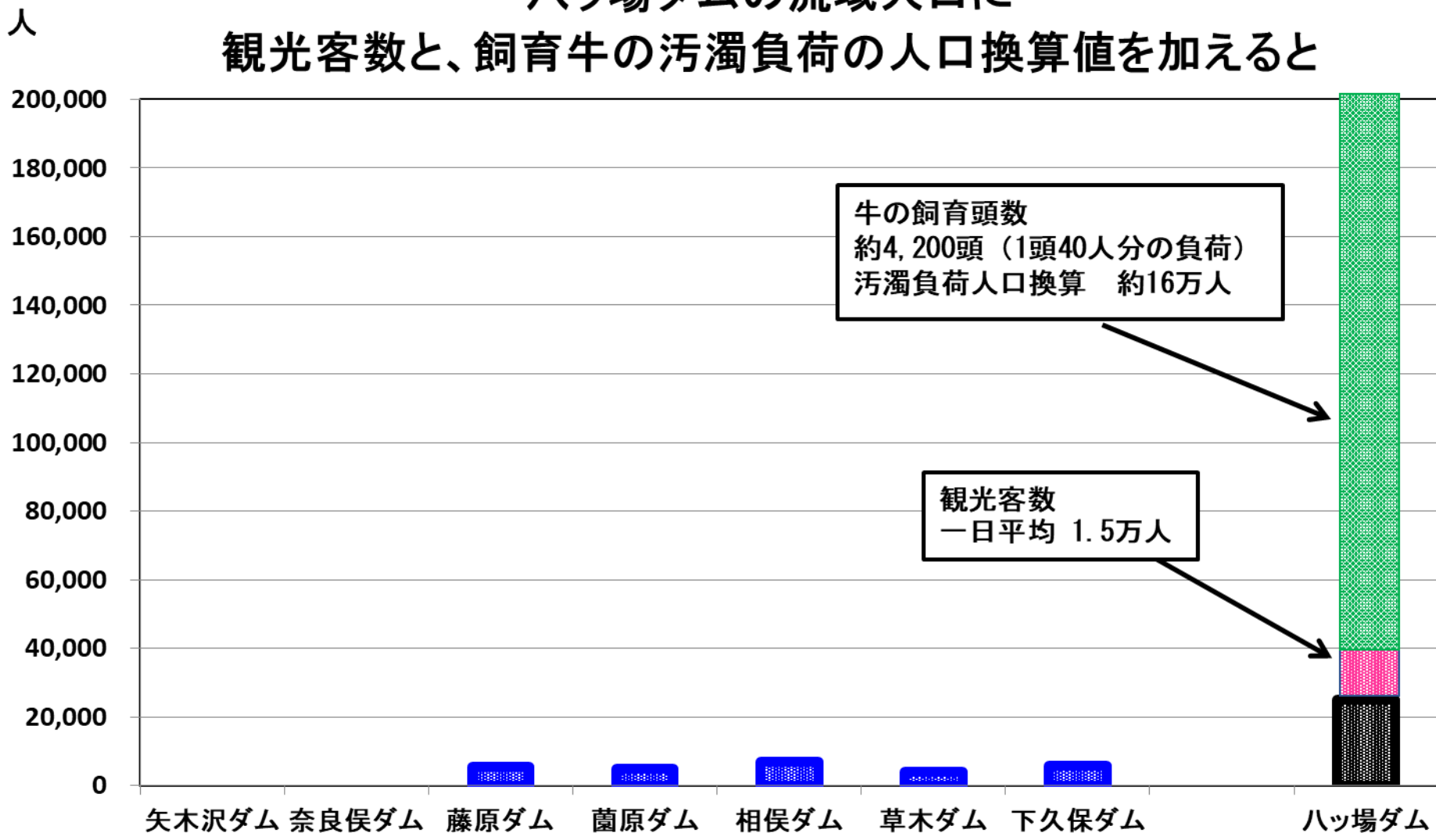
観光客の激減で散策路は草が生い茂り、歩くことも困難になっている。

2 富栄養化によるハツ場ダム湖の水質悪化



ハツ場ダム湖は富栄養化による水質悪化が進むことは必至

ハツ場ダムの流域人口に
観光客数と、飼育牛の汚濁負荷の人口換算値を加えると



ハツ場ダム完成後の景観イメージ



① 夏期には水位が満水位から28m以上も低下（最大で47m）

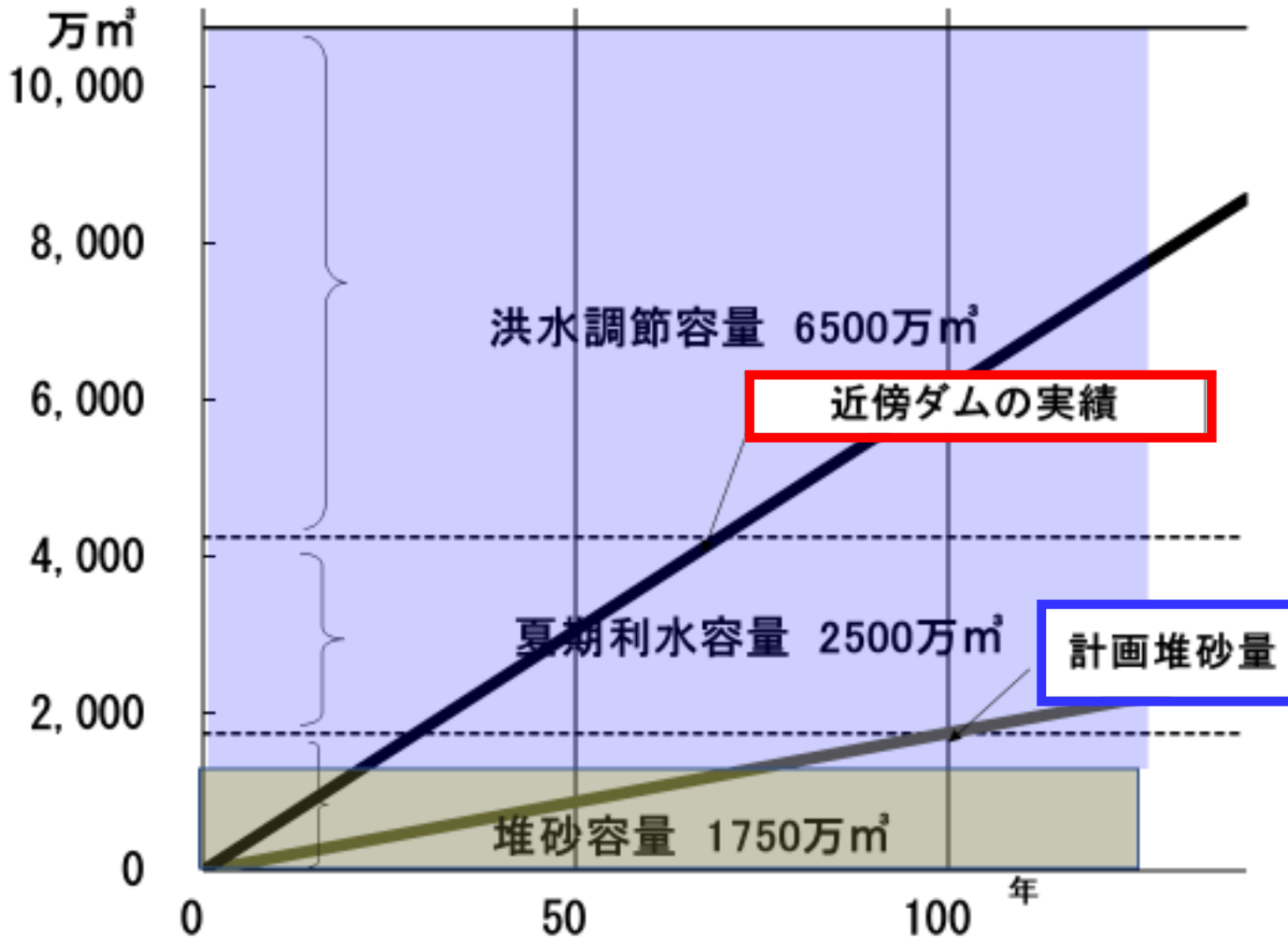
② 浮遊性藻類（植物プランクトン）の異常増殖で水質がひどく悪化



3 ダム湖上流端の河床上昇が引き起こす問題

ハツ場ダムの土砂堆積の予測 50年で夏期利水容量が半減

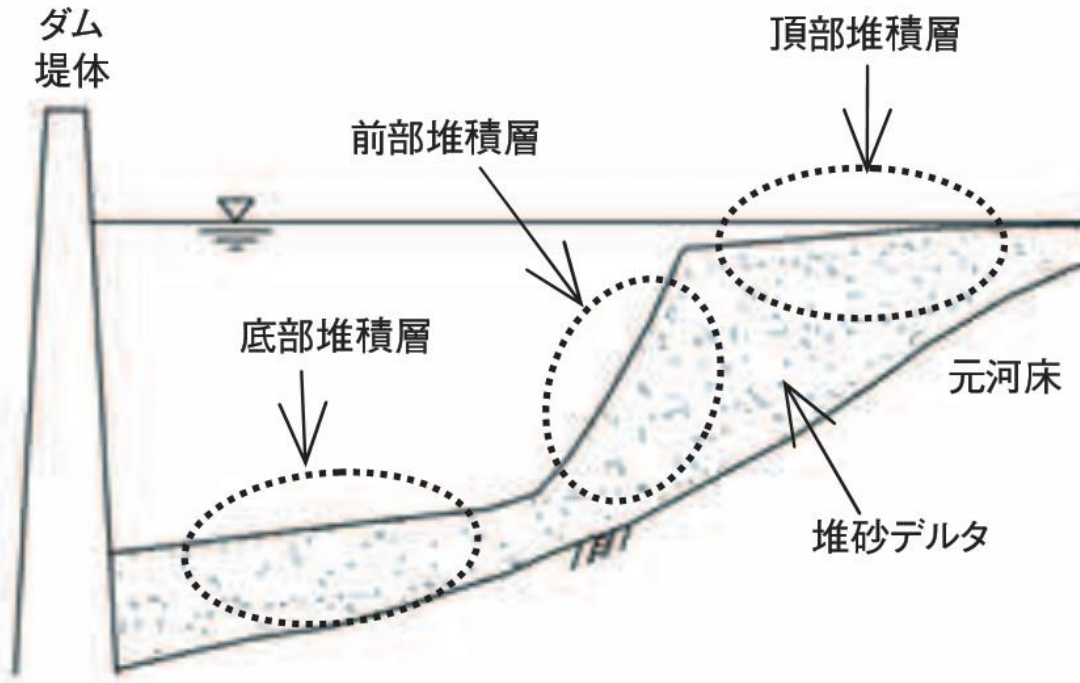
総貯水容量 10750万 m^3



〔注〕近傍ダムの実績：品木ダムの堆砂実績（中和生成物による分を除く）

実際には堆砂は貯水池上流側の浅い方にも堆積していくので、ダム機能低下はもっと早く進行する。

実際の堆砂の進み方



(リザーバー2007.12
末次忠司ほか「堆砂
特性と測量調査」)

図-1 堆積層の分類図

ダム湖上流側の堆砂の進行は、流入する吾妻川の河床を上昇させ、ダム湖の上流端に位置する長野原町中心部で氾濫が起きる危険性を生じさせる。

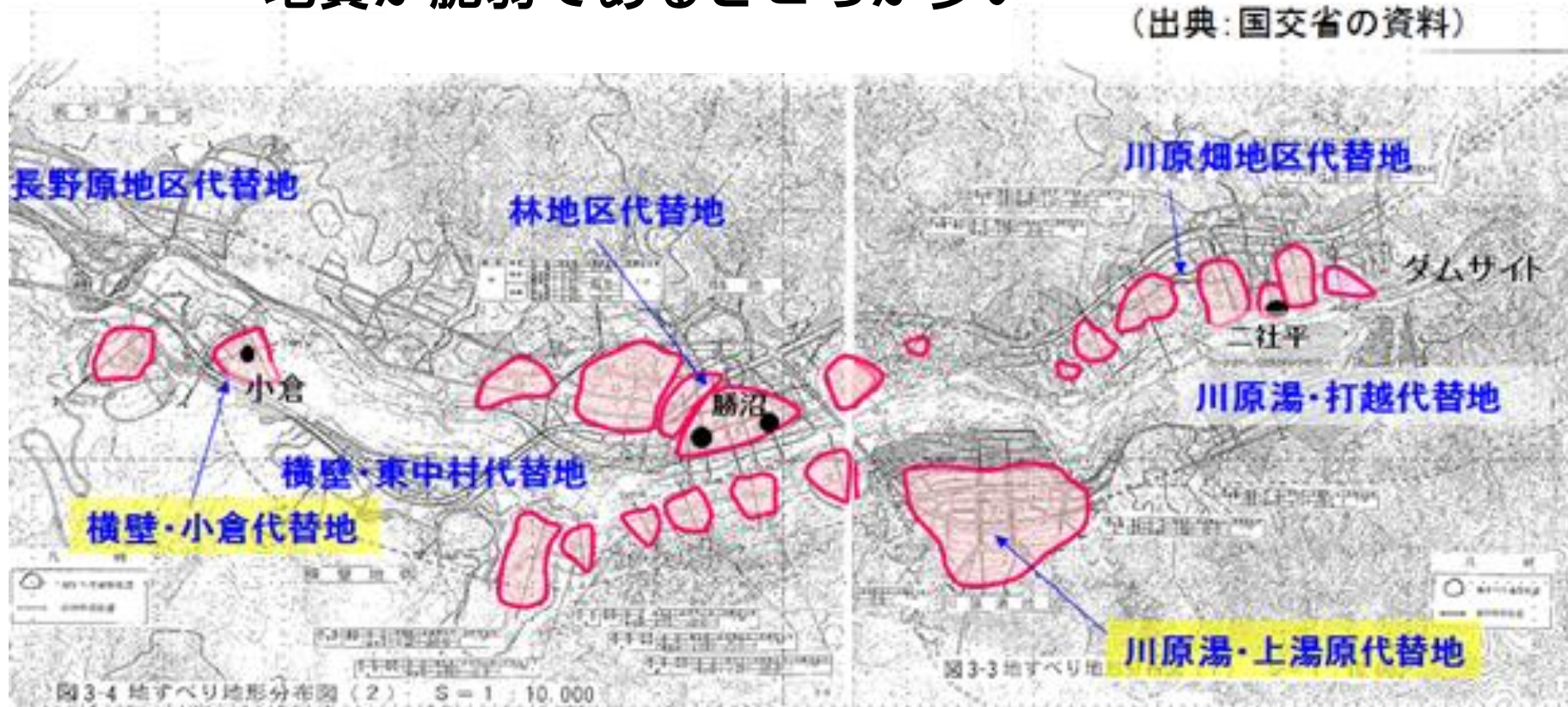
台風19号でハツ場ダム湖の上流端の河床が早くも上昇

ダム湖上流端(長野原草津口駅前)の堆砂 2019年11月12日 (撮影 渡辺洋子)



4 ダム湖周辺で地すべり発生危険性

ハツ場ダム貯水池予定地の周辺
地質が脆弱であるところが多い



○ が地すべりの可能性があるところを示す。

(●は現在の基本計画による地すべり対策箇所)

大滝ダム（国交省）（奈良県）

試験湛水中に地すべりが発生

地すべり対策 工期延長 2003年度→2012年度 9年延期
工事費 308億円

朝日新聞 2011年7月14日 朝刊 34ページ 大阪本社



大滝ダム試験貯水で地滑り 元住民、国に逆転勝訴

大阪高裁

奈良県川上村の大滝ダムの試験貯水によって起きた地滑りで移転を余儀なくされたとして、川上村の元住民12人が国に慰謝料など約9千万円の国家賠償を求めた訴訟の控訴審判決が13日、大阪高裁であった。松本首領裁判長は一番・奈良地裁判決が退けた移転に伴う元住民の精神的損害を認め、国に1人当たり100万円の賠償を命じた。

控訴審判決によると、国が大滝ダムへの試験貯水を始めてから約1カ月後の2003年4月、ダム東側の川上村白屋地区の家屋の壁や地面などに多数の亀裂や崩壊が見つかり、全37戸の

住民計77人が村内のプレハブの仮設住宅に一時移転。その後、村内の別の場所や村外へ移住した。松本裁判長は「白屋地区は地盤が軟らかく、日本でも有数の降雨量が多い地域だ」と指摘し、昨年3月の一審判決と同様に「国は貯水で地滑りが起きることを予測できたといえ、ダムの管理が十分でなかった」と判断。そのうえで一審判決が国による土地買い上げなどを踏まえて退けた精神的

損害について検討し、「元住民は住み慣れた住居を離れ、不自由な生活を強いられた」と判断した。

国土交通省近畿地方整備局によると、大滝ダムは白屋地区など3カ所で地滑りの対策工事が続いており、13年度に発電や治水などの多目的ダムとして運用が開

始される予定。判決後、上総周平局長は「関係機関と協議して対処したい」との談話を出した。

高齢の原告「上告しないで」

「本音は元の白屋に戻してほしい」。原告の井上兼治さん(87)は奈良県橿原市。判決後、複雑な思いをにじませた。

約50歳離れた村内の仮設住宅に移転。そこで3年以上暮らした後、住民たちは離ればなれになった。07年に提訴した30人のうち、18人は高齢や病気などで控訴できなかった。「ふるさとに住むことも、祭りをすることもできない。私たちがこれ以上苦しめないでほしい」。会見で、井上さんは国に上告しないよう求めた。(平賀拓哉)

白屋で生まれ、川上村役場に就職した。国がダム建設の基本計画を示した1972年ごろから、住民らは「地滑りの危険がある」と訴えた。地滑りが見つかった後の2003年7月、ほかの住民らと一緒に南東に

求めた。

荒川の二瀬ダム（国交省） 1961年完成後、地すべりがずっと続いている。

朝日新聞 2007年10月27日 朝刊 34ページ 埼玉全県



今は高齢化が進み、林業は廃れ、主立った産業もなくなつた。何より1961年にダムができたころから、村人は地滑りに上る地割れに悩まされ続けている。

秩父市大滝の山中にある二瀬ダム左岸の急傾斜地に、50、60軒の家がへばりついている。すぐ下では荒川の流れがダムにせき止められ、秩父湖を形作っている。

信州、甲州につながる主要道、秩父往還の集落として、江戸時代は三峯詣でも善光寺詣での往来でにぎわった。村人は山仕事に従事し、荒川を伝い、いかたでヒノキを運んだと伝わる。

荒川新時代

第2部 開発の光と影 1



この地域を訪れると、道路に入った割れ目、ゆがんだ家の柱などはいくつも見つかる。

麻生、民宿を経営する山中深さん(64)宅を17日に訪ねた。居間の壁を上げると幅10、20センチの裂け目が地面に走っていた。約10年前に見つかったという。枝分かれしながら母屋を縦断し、家の前の石垣まで続いていた。

柱や床材は斜めにゆがんでるので、ボルトで固定する。

ダムの村 地割れで移住話

約6年前、地下でずれた水道管の修理代で160万円、民宿の風呂が割れて300万円など、家の修理には事欠かない。「ひびくようになったのは10年前から。ダムの水位が下がると家がギンギンシキシむ。補償要求しても、役所であらういふにされるだけ」

上中尾の主婦、高橋トラジさん(82)の寝室の壁には今年、幅1センチ、長さ約150センチのひびが入った。天気が続く家が乾いてヒシヒシ音が出る。気がなじめないけれど、

旧大滝村議を3期務めた上中尾の山中要三郎さん(76)は指摘する。「ダムができる前は地滑りは起きなかった」

県が88年に発行した「荒川総合調査報告書」を見ると、53年に運搬道工事が始まると地滑りが各所で起こった。ダムサイトの探掘工事では大規模な地滑りが発生し、対策に相当の工費と日数が費やされたとある。

国土交通省二瀬ダム管理所に

よると、ダ
積した層が
りを起しし
という。約
構・滝沢
験水以降
いる。

ダム完成
工事に追わ
3集落で計
った。さら
地区で2億
にわたり航
設と地滑り
はないとい
所長は「地
下のほかに
えられる。」



②二瀬ダムのほとりに住宅が並ぶ上中尾地区①麻生地区の山中深さんの床下には、地面に大きな割れ目が入っている。いずれも秩父市大滝で

ハツ場ダム貯水域の地すべり対策

2010年までの地すべり対策は、
わずか約6億円(4億円は実施済み)で、
3地区のみ(新規は2地区)であった。

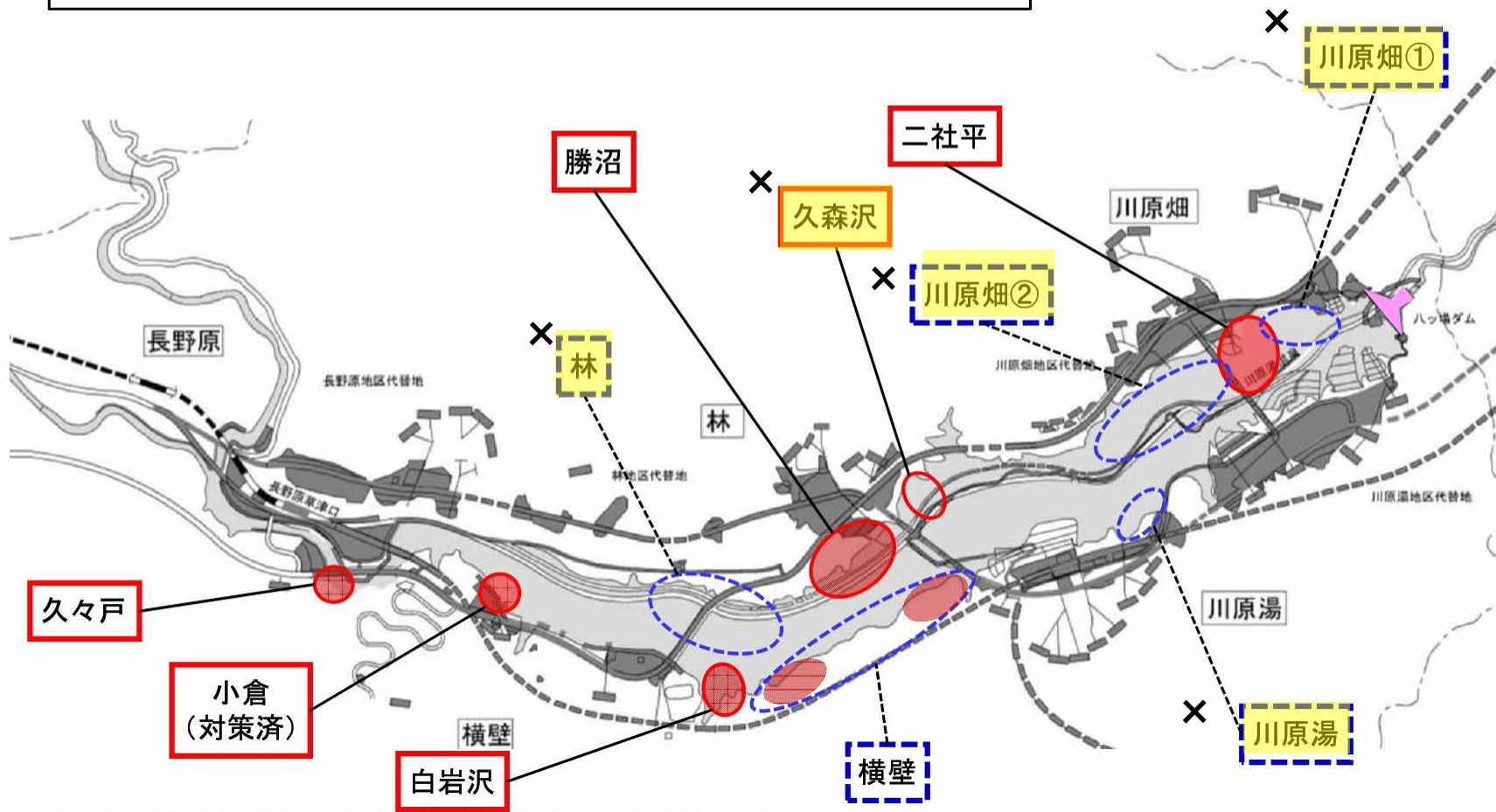
地区名	地すべり対策の工法	対策工事費
二社平(川原畑)	押さえ盛土工、捨石工	0.87億円
勝沼(林)	押さえ盛土工、捨石工	1.00億円
小倉(横壁)	鋼管杭・排土工・押さえ盛土 (H21迄に実施済)	3.95億円
計		5.8億円

裁判等で地すべりの危険性、代替地の安全性の問題を訴えてきたことにより、2011年のハツ場ダムの検証で約140億円かけて11地区で地すべり対策、5地区の代替地で安全対策を実施することになったのだが、……

ハツ場水没地周辺の地すべり対策の後退

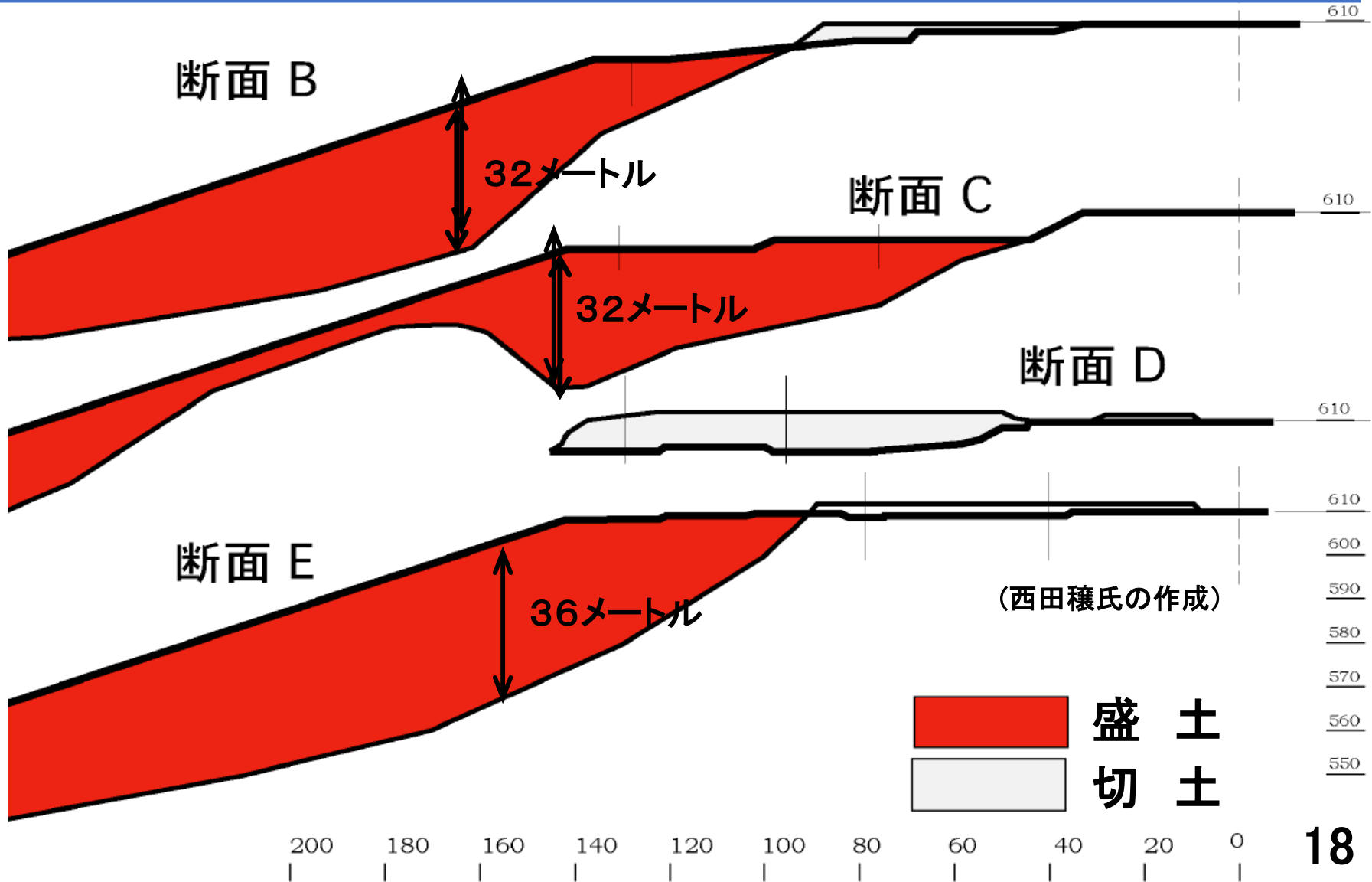
: 地すべり対策工を必要とする可能性がある地区
 : 未固結堆積物斜面对策工を必要とする可能性がある地区
 : 対策必要箇所 : 対策不要箇所

× 費用削減のため、地すべり対策を不要とした地区



川原湯地区の打越代替地

超高盛土の埋め立てであるので、安全性の問題が懸念される。



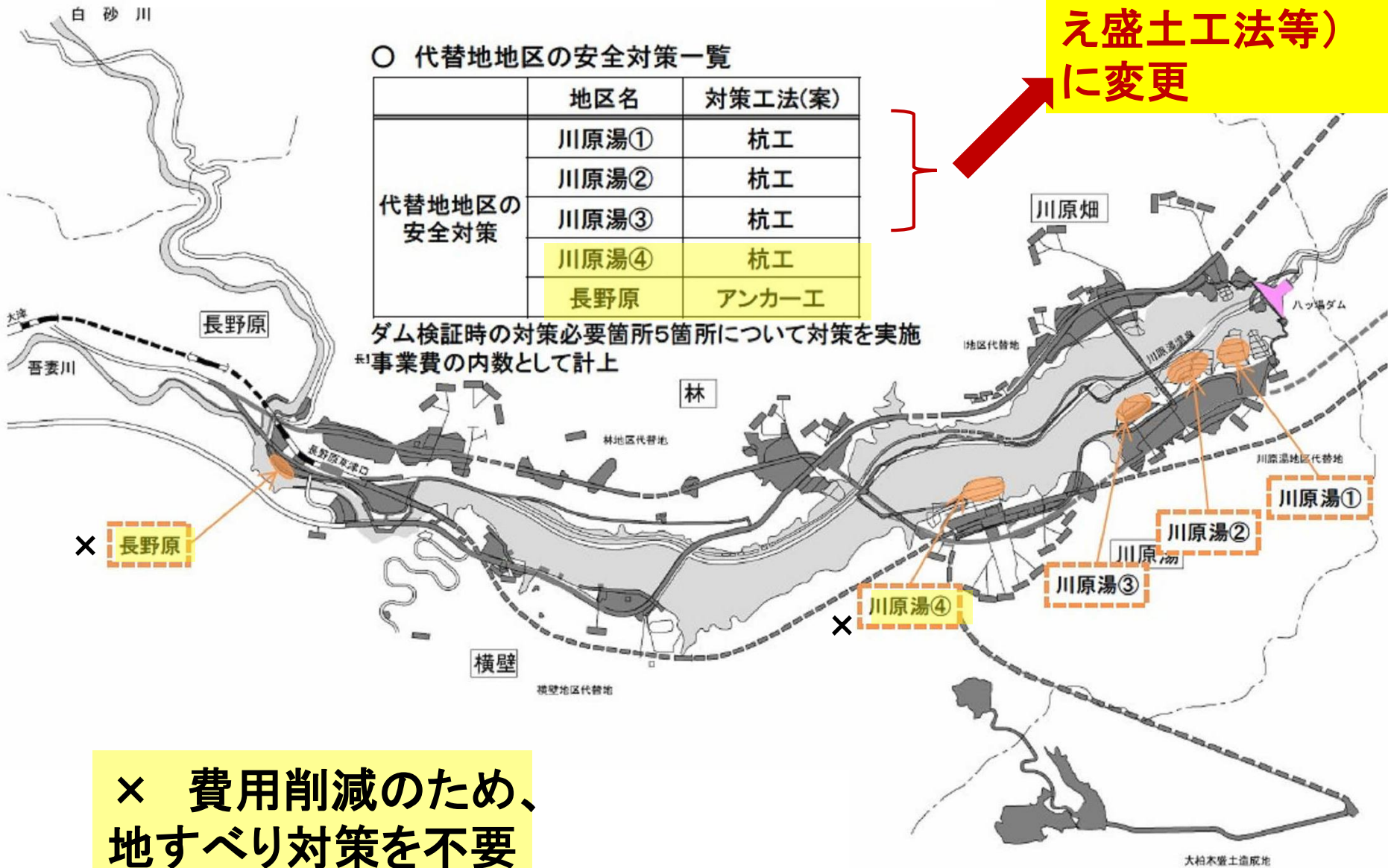
ハツ場ダム代替地の安全対策の後退

簡易な工法(押さえ盛土工法等)に変更

○ 代替地地区の安全対策一覧

	地区名	対策工法(案)
代替地地区の安全対策	川原湯①	杭工
	川原湯②	杭工
	川原湯③	杭工
	川原湯④	杭工
	長野原	アンカー工

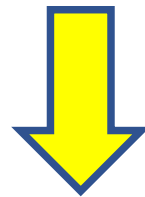
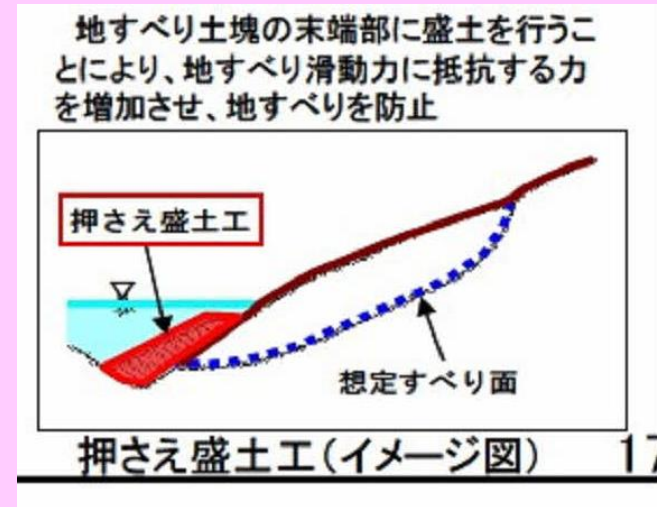
ダム検証時の対策必要箇所5箇所について対策を実施
事業費の内数として計上



× 費用削減のため、地すべり対策を不要とした地区

費用削減のため、地すべり対策と代替地安全対策の対象を大幅に減らし、工法を簡易なものに変更している。

さらに、地すべり対策を講じる地区も専門家は十分な対策であるかどうか、疑問視している。



ハツ場ダムはダム完成後、貯水位の上下の繰り返しにより、深刻な地すべりが起きる危険性をはらんでいる。

5 川原湯温泉街の今後

☆ダム湖観光の前途

★観光シーズンの水位低下(28メートル以上)

★水質の悪化

☆美しい吾妻溪谷の喪失

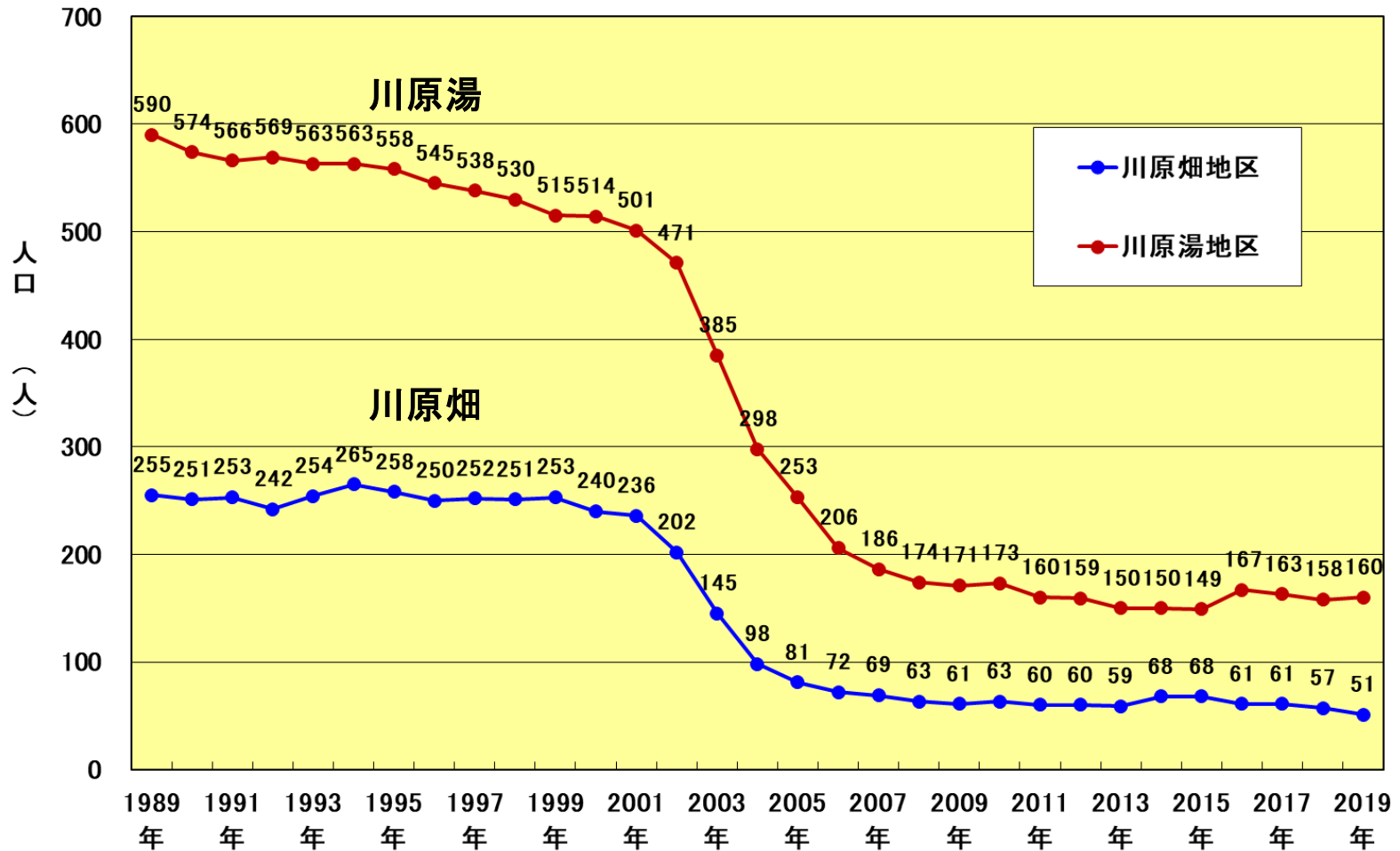
☆移転して営業している旅館は5軒

・かつての温泉街は再建されなかった。

・配湯施設の維持費用を負担できるのか？

☆代替地の安全性への不安

全戸水没地区の人口減少



[注]2016年までは10月1日、2017年からは1月末の人口を示す。

人口急減の理由

- 代替地造成の遅れ(当初の約束は1997年)
- 代替地の高額分譲価格

川原湯温泉の旅館数

1975年 17軒

1977年 19軒

1980年 18軒

2001年（補償基準の調印）

2002年 14軒

2005年（代替地分譲基準の調印）

2006年 11軒

現在 5軒（旅館4軒、民宿1軒）

（山木館、丸木屋、やまた旅館、ゆうあい旅館、山水）

かつての最盛期は約20軒

ハツ場ダム建設で立ち退いた小学校 21年廃校に

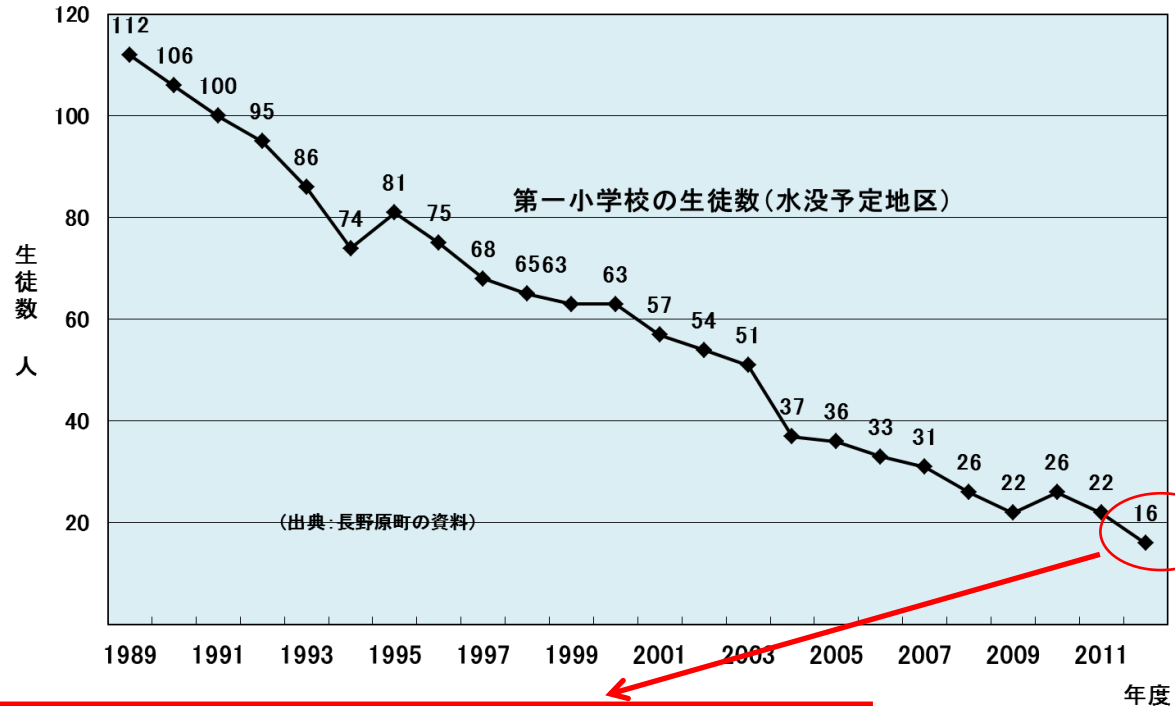
(朝日新聞群馬版2019年11月1日)

廃校となるのは町立第一小(児童数17人)。21年4月に、西に5キロほど離れた町立中央小(79人)に統合される。

(写真)ダム湖を望む高台に位置する町立第一小学校



長野原町第一小学校の生徒数の推移



2019年度の生徒数は17人、入学者はゼロ

年度